

平成22年3月26日

独立行政法人 労働政策研究・研修機構（理事長 稲上毅）  
担当：キャリアガイダンス部門 統括研究員 西村公子  
キャリアガイダンス部門 副主任研究員 下村英雄  
電話 048-463-1444（下村）  
URL：http://www.jil.go.jp E-mail：hsim@jil.go.jp

## ～「成人キャリア発達に関する調査研究 - 50代就業者が振り返るキャリア形成」調査結果より～

現在の50代就業者は、自らの職業生活を「30代前半がピーク、40代後半が底であった」と振り返る。

これまでの人生が運や周囲の環境ではなく、自分の能力や努力によって決まってきたと考える人は、職業生活・キャリアに対する満足感が高い。

過去の職業生活上の危機は40代が中心。危機の内容は、仕事面が中心だが、倒産や転職、上司との人間関係などもあがった。

### 【要旨】

本報告書では、現在、50代の就業者が20代から50代に至る自らのキャリア（職業人生）を振り返った際、自らの職業生活をどのように評価するのか、どのように感じているのかについて調査を行い、経済社会の中堅的な担い手としての成人のキャリアの実像を浮き彫りにしました。

### 【調査結果のポイント】

1. これまでの職業生活・キャリアに対する満足感は、概して、現在の収入が高いほど、規模の大きな会社に勤めているほど高い。また、これまでの人生は「能力」または「努力」によって決まってきたと考える人には、満足感が高い人が多い（2ページ図表1）。

2. 各年代で重要だった出来事は、10代で「大学への進学」、20代で「正社員として就職」、30代で「昇進・昇格」「転職」「仕事内容の変更」、40代で「管理職になる」「昇進・昇格」「仕事内容の変更」、50代で「仕事内容の変更」「管理職になる」「配属先の変更」（4ページ図表4）。

3. 自分の職業生活・キャリアを曲線で描いてもらうと、男性は30代前半をピーク、40代後半を底とするS字曲線になる。一方、女性は30～40代はより平板な曲線になるが、50代からの上昇が著しい（5ページ図表6）。また、現在の収入と満足感によって曲線の形状は大きく異なっていた（6ページ図表7）。

4. 過去の職業生活上の危機は40代が中心（8ページ図表10）。危機の内容は、会社の仕事面が中心だが、倒産や転職、上司との人間関係なども危機として挙げられた（8ページ図表11）。

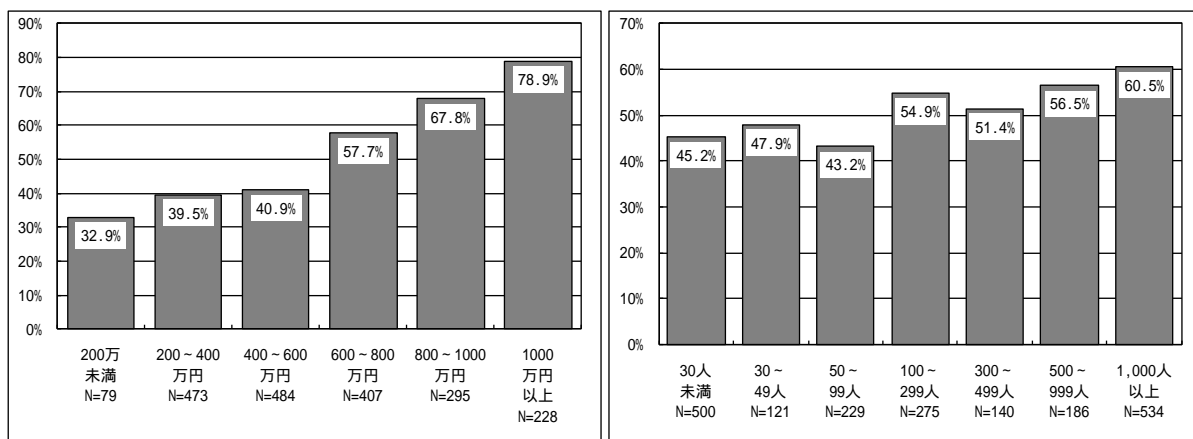
1.これまでの職業生活・キャリアに対する満足感は、現在の収入が高いほど、規模の大きな会社に勤めているほど高い。また、これまでの人生は「能力」または「努力」によって決まってきたと考える人には、満足感が高い人が多い。

図表1は、現在の年収および現在の勤務先の従業員数と満足感の関係をグラフ化したものです。「現在の年収」は過去1年間のおおよその税込み年収、「現在の勤務先の従業員数」は勤務先全体の従業員数でパート・アルバイトを除くおよその数を回答してもらいました。

縦軸は、「あなたは、これまでの職業生活やキャリアに、どの程度、満足していますか。」という設問に対して5件法（「とても満足している」「おおむね満足している」「どちらとも言えない」「あまり満足していない」「全く満足していない」）で回答してもらった結果であり、このグラフでは「とても満足している」と「おおむね満足している」を合計した値となっています。

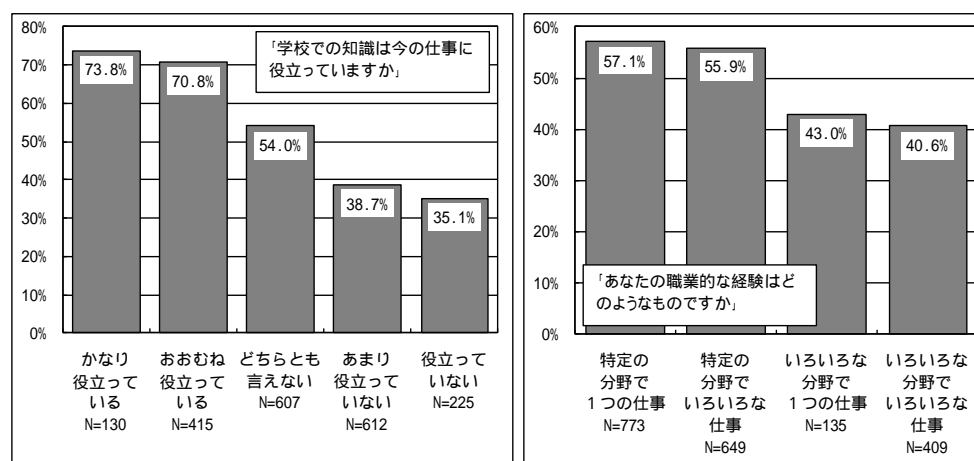
グラフから、現在の年収が高いほど、また、現在の勤務先の従業員数が多いほど、これまでの職業生活やキャリアに対する満足感が高い人が多いことが分かります。

図表1 現在の年収別(左)および現在の勤務先の従業員数別(右)の満足していると回答した者の割合



また、「学校での知識は今の仕事に役立っていますか」や「あなたの職業的な経験はどのようなものですか」などの質問項目に対する回答も、これまでの職業生活・キャリアの満足感と関連していました。学校での知識が役立っていると思う人ほど、また、特定の分野で1つの仕事をしてきたと思う人ほど、満足感が高い人は多くなっていました(図表2)。

図表2 「学校での知識は今の仕事に役立っていますか」別(左)および「あなたの職業的な経験はどのようなものですか」別(右)の満足していると回答した者の割合

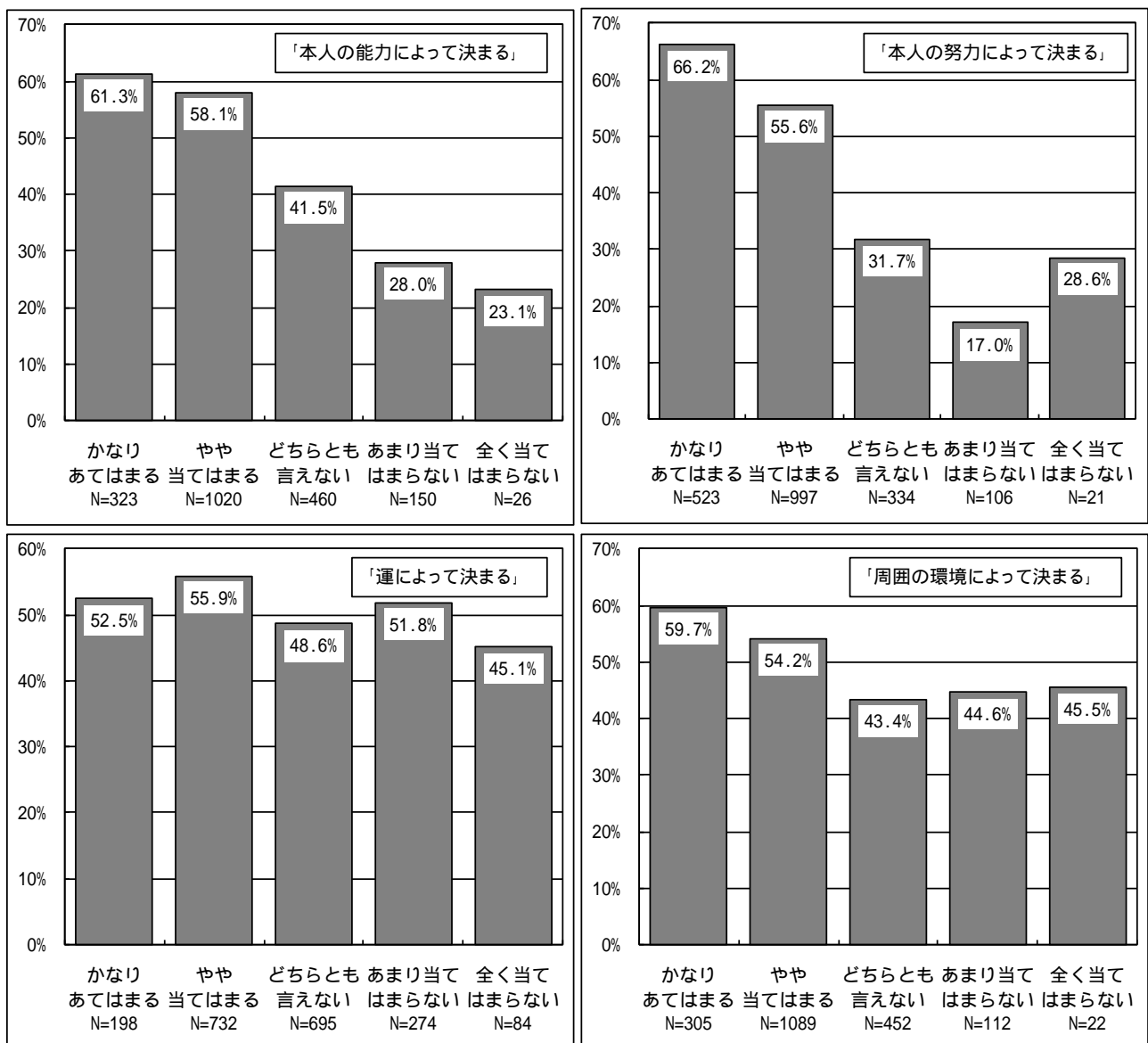


さらに、これまでの職業生活・キャリアに対する満足感は、「これまでの人生はどのように決まってきたと思いますか」という人生観と密接に関連していました。

図表3は、「これまでの人生はどのように決まってきたと思いますか」を「本人の能力によって決まる」「本人の努力によって決まる」「運によって決まる」「周囲の環境によって決まる」の4側面について評定してもらった結果と、これまでの職業生活・キャリアに対する満足感との関連性を示したグラフです。

図表3から分かるとおり、「本人の能力によって決まる」または「本人の努力によって決まる」に肯定的に回答する人では、これまでの職業生活・キャリアに対する満足感が高い人が多くなっていました。一方、「運によって決まる」「周囲の環境によって決まる」という回答と、これまでの職業生活・キャリアに対する満足感、あまり関係がみられませんでした。

図表3 「これまでの人生はどのように決まってきたと思いますか」に対する回答別の満足していると回答した者の割合



なお、年収、企業規模、性別、最終学歴、転職件数、失業や休職の有無、職業能力の自己評定などをコントロールして含めて重回帰分析を行った場合には、「努力」のみが統計的に有意になります。詳しくは、お問い合わせください。

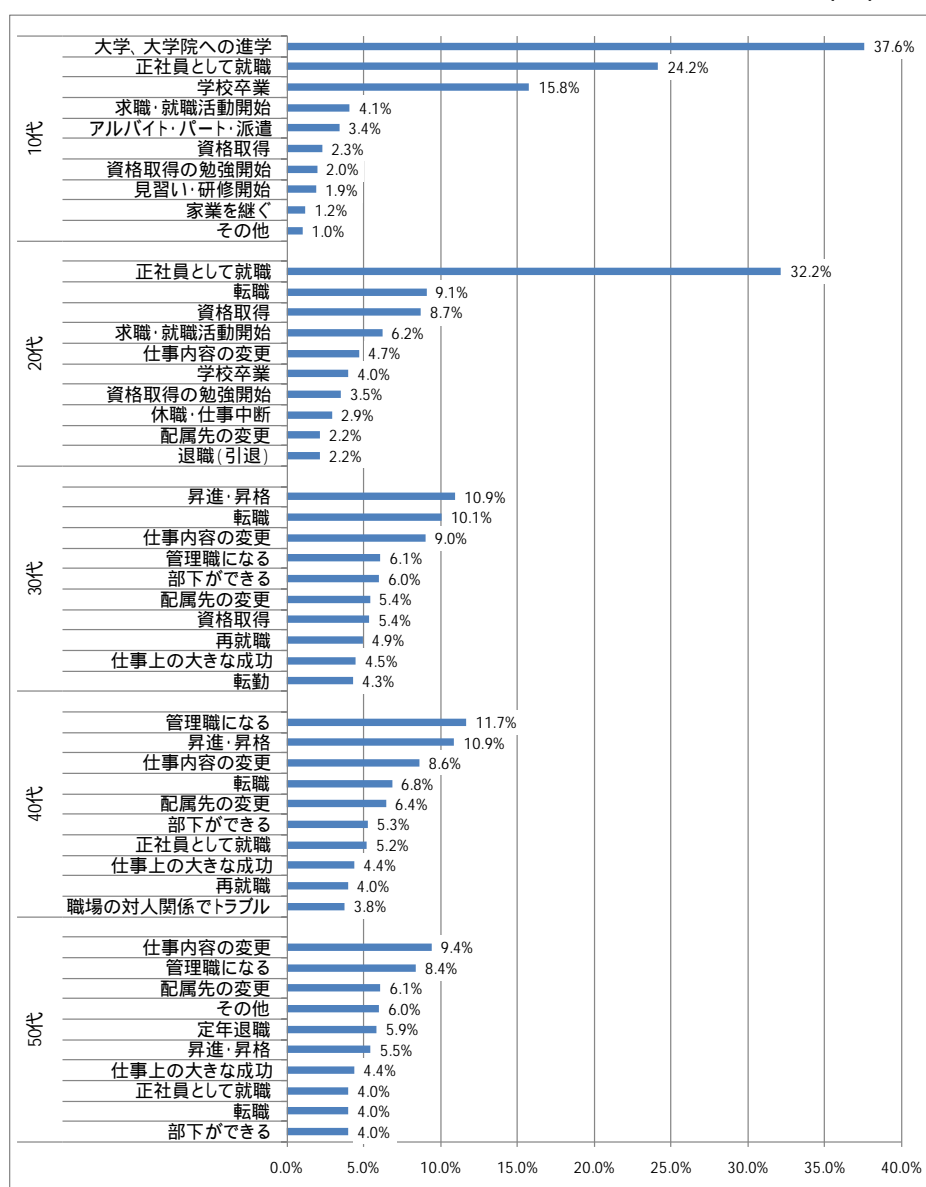
**2. 各年代で重要だった出来事は、10代で「大学への進学」、20代で「正社員として就職」、30代で「昇進・昇格」「転職」「仕事内容の変更」、40代で「管理職になる」「昇進・昇格」「仕事内容の変更」、50代で「仕事内容の変更」「管理職になる」「配属先の変更」。**

図表4は、調査回答者に、10代から50代の各年代で一番重要だった出来事は何かを選択してもらった結果です。

10代で「大学への進学」「正社員として就職」「学校卒業」、20代で「正社員として就職」、30代で「昇進・昇格」「転職」「仕事内容の変更」、40代で「管理職になる」「昇進・昇格」「仕事内容の変更」、50代で「仕事内容の変更」「管理職になる」「配属先の変更」という結果になりました。

全般的に、10代や20代は1つか2つの出来事に回答が集中する傾向がありました。それに対して、30代以降は回答が分散するため、各項目の選択率は相対的に低くなる傾向がありました。つまり、年齢が若いうちは仕事上で重要だった経験に人によってそれほど大きな違いがないのに対し、年齢を重ねるに連れて、仕事上でどのような経験をするかは人によって大きく違ってくることが分かりました。

**図表4 仕事に関する出来事の各年代別上位10項目の選択率(%)**

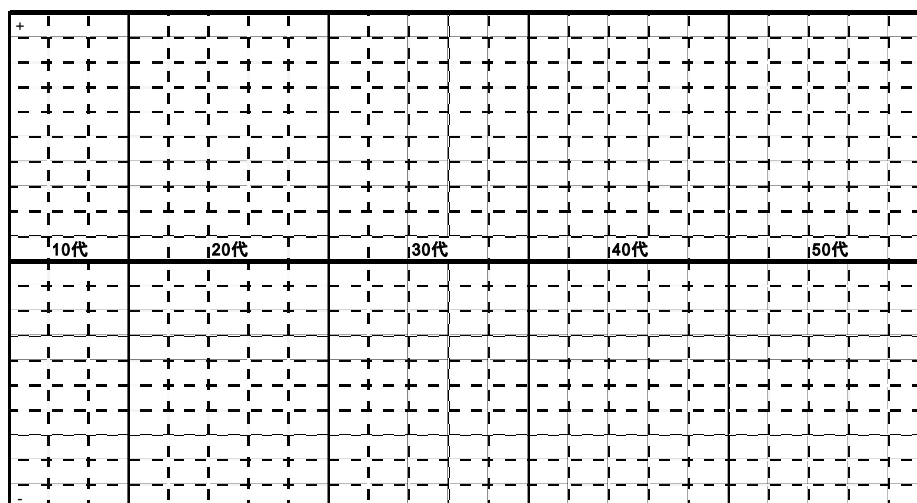


3. 自分の職業生活・キャリアを曲線で描いてもらうと、男性は30代前半をピーク、40代後半を底とするS字曲線になる。一方、女性は30～40代では平板な曲線になるが、50代からの上昇が著しい。また、現在の収入と満足感によって曲線の形状は大きく異なる傾向がみられた。

今回の調査では、図表5示したような教示文とマス目を提示して、学校卒業後から現在に至るまでの職業生活の浮き沈みを曲線で描くように、調査回答者に求めました。このような手法をキャリア研究ではライフライン法と読んでいますが、この手法を用いることによって、50代の就業者が自らの職業生活・キャリアを、頭の中でどのように思い描いているのかを明らかにしたいと考えました。

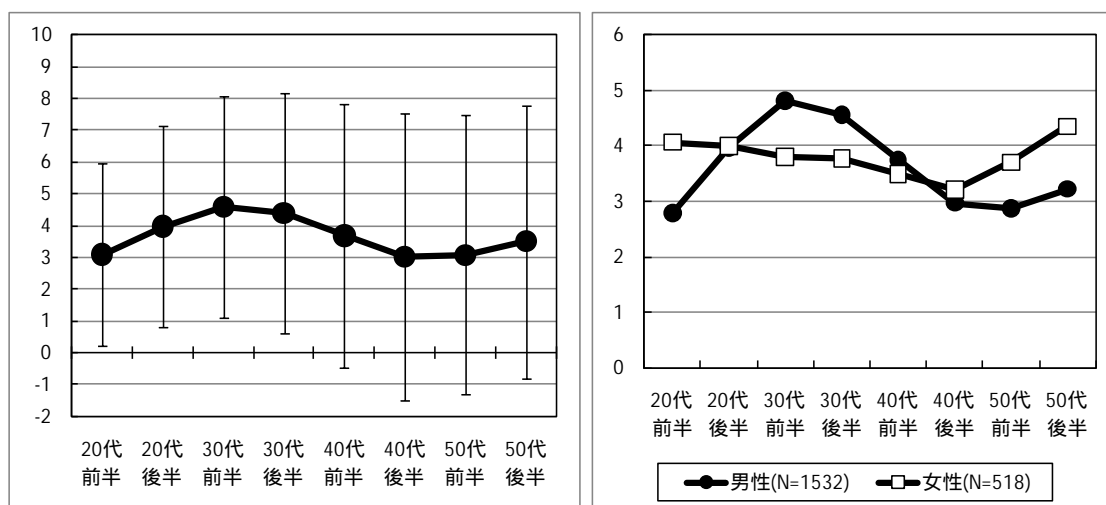
図表5 ライフライン法の手続きと具体的な教示文

学校を出てから、現在に至るまでの職業生活の浮き沈みを、線で書き表すとしたら、どのようになりますか。例を参考にしてご記入ください。また、最も山になっている部分、最も谷になっている部分には、どんな出来事があったのか、差し支えない範囲で、吹き出しをつけて、お答えください。



図表6はその結果です。このグラフは、全回答者が描いた曲線を数値化してデータとして入力し、各年代ごとに平均値を求め、それを線をつないで作成しました。

図表6 ライフラインの全体の傾向(左)と性別の曲線の形状の違い(右)



図表6左の「ひげ」は標準偏差を示します。標準偏差は値の散らばりぐあいを示す指標であり、この範囲内に約70%の人が入ることを意味します。各年代ごとのSDの値は以下のとおりです。20代前半2.87、20代後半3.18、30代前半3.48、30代後半3.78、40代前半4.14、40代後半4.50、50代前半4.39、50代後半4.29。

図表6左からは3つのことが分かります。

このような曲線を描いてもらうと、回答者はおおむね曲線を0以上の範囲に描くことが多かったという点です。人々は、自らの職業生活やキャリアをプラス方向にポジティブに思い描く傾向があるということが分かります。

曲線の形状は、20代から30代前半にかけて上昇し、30代前半をピークに40代後半にかけて下降し、その後50代前半から後半に向けて再度上昇して行きました。人が自らの職業生活を振り返って曲線で描いた場合、30代前半でピークを迎え、その後下降して40代後半で底を打ち、50代で再び上昇するS字曲線を描く傾向が示されました。

図表6左には各年代ごとに標準偏差も上下に伸びる線で表しています。図では少し分かりにくいですが、年齢が高くなるにつれて標準偏差が大きくなって行きました。これは、若い頃は、ポジティブに評価するかネガティブに評価するかが、人によってあまり変わらないのに対して、年齢を重ねるに連れて人によって評価が大きく異なっていくことを示します。

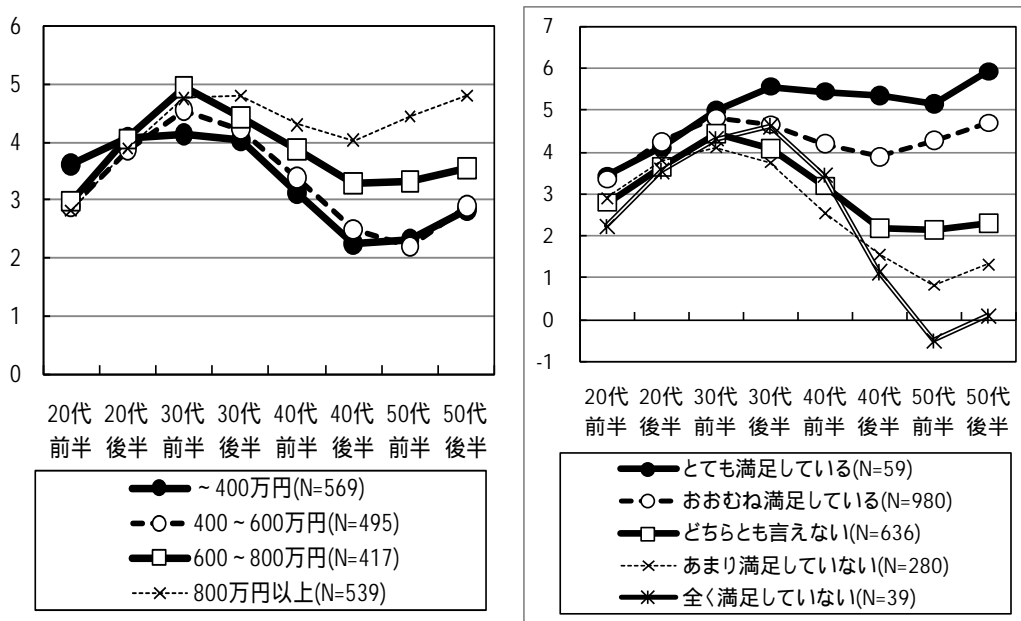
なお、性別に検討を行った結果、図表6右に示したとおり、男性では上述した30代前半をピーク、40代後半を底とするS字曲線がはっきり示されていました。一方、女性では線の形状は30~40代では平板でしたが、50代で急上昇して行きました。男性と女性では、自分のキャリアを想起して描いた曲線の形が異なるという結果が見られました。

この曲線の形状は、様々な要因との関連がみられましたが、なかでも、最も大きな違いがみられたのは「年収」とこれまでの職業生活・キャリアに対する「満足感」でした。

図表7左には、最近1年間の税込み年収別の曲線の形状の違いを示しました。20代前半では「400万円未満」の者の値が他より高く、年代があがるにつれて「800万円以上」>「600~800万円」>「400~600万円」「~400万円」の差が開いていきました。

図表7右には、これまでの職業生活・キャリアに対する「満足感」別の曲線の形状の違いを示しました。「とても満足している」と回答した者は30代後半から他よりも値が高く、年代が高くなるにつれて「おおむね満足している」>「どちらとも言えない」>「あまり満足していない」>「全く満足していない」の値の差が大きくなり、50代では明確な開きがみられました。

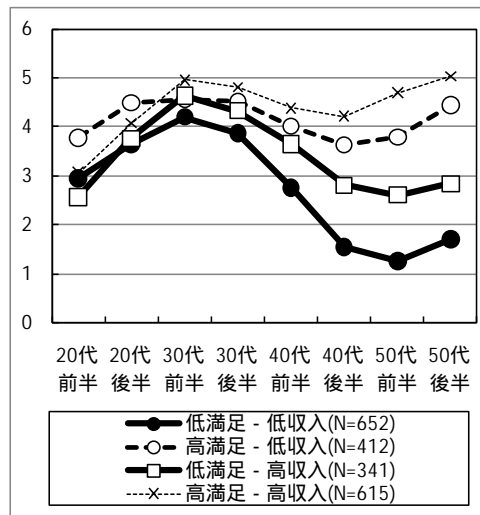
図表7 「最近1年間の年収(税込み)」別(左)および「これまでの職業生活やキャリアに対する満足感」別(右)の曲線の形状の違い



従来、「満足感」と「年収」は、それぞれ内的キャリアと外的キャリア（または主観的キャリアと客観的なキャリア）の代表的な指標として重視されてきました。そこで、この2つの要因を組み合わせ「高満足 - 低満足」×「高収入 - 低収入」で4つのグループに回答者を分けて、さらに詳しく曲線の形状を検討しました。

図表8はその結果です。図表8から曲線の形状はおおむね30代後半までは変わらず、40代前半以降、開きが出てくるのが分かります。40代前半以降の値が最も高いのは「高満足 - 高収入群」であり、40代から50代にかけての落ち込みがほとんどありませんでした。次に高いのは「高満足 - 低収入群」であり、その次に高い「低満足 - 高収入」群と、特に50代からの値に開きが観察されました。

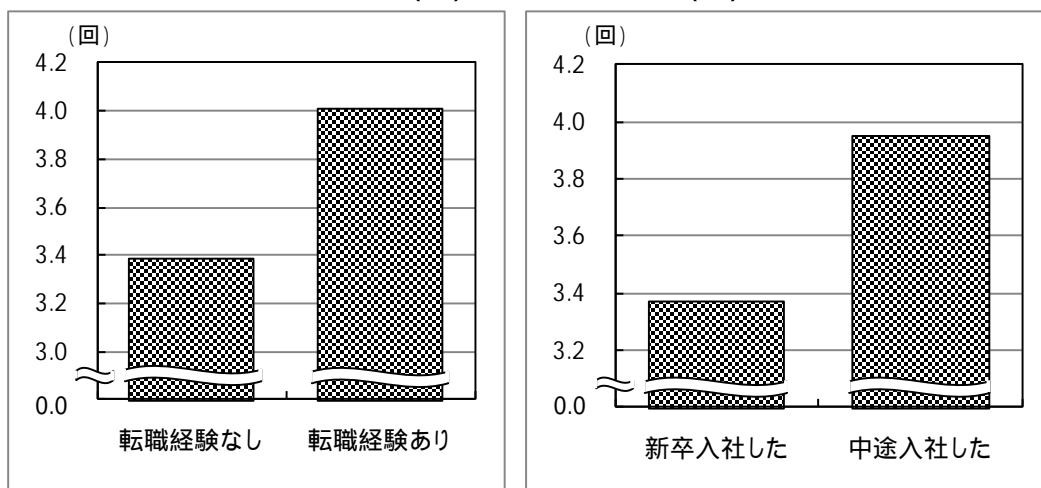
図表8 収入・満足感の4群別の曲線の形状の違い



こうした曲線を描いてもらった場合、たいていの人は何回か線を曲げて描きました。そこで曲線が何回曲がっているかを数え上げ、この屈曲点の数の平均値を求めたところ約3.75回(SD=2.17)となりました。平均的な人は4回弱、曲がる曲線を描くということが分かります。

この屈曲点は、その人の職業生活・キャリアがどの程度、波乱に満ちたものであったかを示す指標となるようでした。例えば、図表9に示したとおり、転職経験があったり、中途入社したりした人では、屈曲点の数が多くなりました。

図表9 転職経験の有無(左)および入社の際(右)別の屈曲点の数



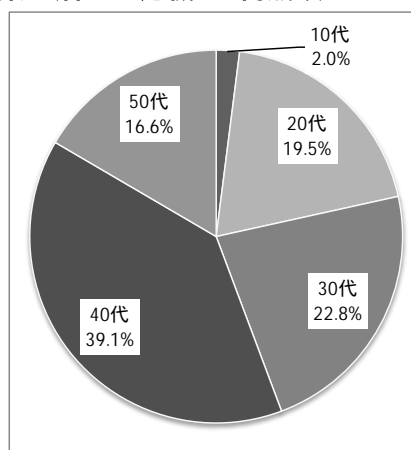
**4. 過去の職業生活上の危機は40代が中心。危機の内容は、会社の仕事面が中心だが、倒産や転職、上司との人間関係なども危機として挙げられた。**

本調査では、「過去の自分の職業生活で最も危機だったと感じること」についても詳しく検討しました。

図表10に、職業生活における危機が何歳頃だったかに関する回答結果を示しました。最も職業生活上の危機であったと報告された年代は「40代」であり、39.1%でした。従来から「中期キャリアの危機」として40代中頃に職業生活上の危機があることは、キャリア心理学では定説としてよく指摘されてきましたが、平成不況をくぐり抜けた現在の50代を対象とした今回の調査結果でも確認されました。

過去の職業生活における危機の年代は「学歴」と「現在の職業」によって大きく異なっていました。最終学歴が「中卒・高卒」の回答者は「10代」が危機であったと回答する割合が高く、「大学・大学院卒」の回答者は「40代」が危機であったと回答する割合が一番高くなりました。また、現在、「専門的 技術的職業」の回答者は「30代」、「管理的職業」の回答者は「40代」、「生産工程・建設などの職業」の回答者は「10代」が危機であったと回答する割合が高いという結果がみられました。

**図表10 過去の職業生活上の危機は「何歳頃のことですか」に対する回答**



図表11には、「過去の自分の職業生活で最も危機だったと感じること」は「どのような出来事ですか」に関する自由記述に頻出する語句（名詞）を数え上げた結果を示しました。表から、最も用いられやすい語句は「仕事」であり、以下「会社」「関係」「倒産」「転職」と続くことが分かります。概して言えば、過去の職業生活上の危機は「会社」での「仕事」面のことであり、その中には「倒産」や「転職」が含まれ、さらには「上司」との「人間」「関係」なども含まれることが分かります。

**図表11 過去の職業生活上の危機に関する自由記述で用いられる頻度の高かった語句(名詞)**

		(件)	
仕事	260	リストラ	51
会社	253	職場	50
関係	100	就職	41
倒産	87	転勤	38
転職	86	トラブル	35
人間	79	内容	33
上司	78	入院	33
病気	51	部署	30
退職	61	営業	30
自分	52	勤務	29

自由記述データの分析にあたっては、樋口耕一氏によって開発・公開されているフリーソフトウェアである「KH Coder」(<http://khc.sourceforge.net/index.html>)を用いました。



## 参考

### 今回の調査方法

#### (1) 調査対象者

本調査は、50代（2009年1月において50～59歳＝1949年2月生～1959年1月生）の常勤労働者を対象として、生涯キャリア形成支援ニーズに関するアンケート調査として行われた。50代の常勤労働者を対象とすることにより、経済社会の中堅的な担い手としての30代～50代の成人層におけるキャリア形成の問題点およびニーズを把握することを狙いとした。

#### (2) 調査手法

調査は、2009年1月に実施した。調査対象者の選定は、調査会社を通じて、調査会社のモニターに郵送にて調査票を配布し、返送するように依頼した。図表12に本調査回答者の年齢・性別の内訳を示した。50～59歳までの回答者の男女比は、約3：1で国勢調査および就業構造基本調査等に示される50代の正規就業者（または雇用者）における男女比とほぼ同じになるようにした。本調査の回答者の分布を国勢調査、就業構造基本調査等と比較した結果、全国の50代の正規就業者を代表するサンプルとして考えた場合、若干、都市部の回答者が多く、製造業で働く者、管理的職業で働く男性が若干多いという特徴があった。ただし、それ以外については、おおむね全国を代表する分布となっていた。

図表12 本調査回答者の年齢・性別の内訳

	50歳	51歳	52歳	53歳	54歳	55歳	56歳	57歳	58歳	59歳	不明	合計
男性	217	162	192	162	178	120	136	123	123	113	6	1526
	79.2%	72.6%	78.4%	77.5%	75.7%	71.9%	75.6%	73.2%	69.5%	68.5%	85.7%	74.7%
女性	57	61	53	47	57	47	44	45	54	52	1	517
	20.8%	27.4%	21.6%	22.5%	24.3%	28.1%	24.4%	26.8%	30.5%	31.5%	14.3%	25.3%
合計	274	223	245	209	235	167	180	168	177	165	7	2043

#### (3) 調査内容:

- ・基本属性（性別、居住地、年齢、雇用形態、労働時間、年収、最終学歴、配偶者・子供の有無、介護家族の有無）
- ・これまでのキャリア（勤続年数、入社経緯、現在の勤務先の業種・職業・従業員数、転職経験の有無、失業の有無、職業経験、職業能力の自己評価、年代別「仕事」「家庭」に関する重大だった出来事）
- ・現在のキャリア（現在の生活の満足度、これまでの職業生活やキャリアに対する満足度、転職希望、学習意欲）
- ・今後のキャリア（今後の職業生活に対する見通し、職業生活を引退後の見通し、何歳まで働きたいか、老後に対する不安、今後を考える上で行政に求めるサポート）
- ・質的調査項目（過去の危機に関する自由記述、文章完成法、ライフライン法）

#### (4) 本調査対象者のキャリアをとりまく環境条件

多くの者が高等学校等に進学したが、大学・短大に進学する者はまだ少数派。

学卒後の労働市場参入時期が第1次オイルショック後の雇用情勢悪化期に当たる者が多い。

20代後半から30代後半時にバブル期の好況を経験。

30代前半～40代前半時以降、経済環境の激変の中で雇用・失業情勢が急激に悪化。

40代以降の中期キャリアにおいて経済社会の変革を経験し続けている。

\* 当機構のホームページに全文を掲載しています。 <http://www.jil.go.jp/institute/reports/2010/0114.htm>